

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第四小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・大田区学習効果測定において基本的な計算については概ね7割の定着を達成した。
- ・東京ベーシックドリル診断テストを学期に2回実施・集計し、個々の学習状況に応じて補習学習を行うことで、大田区学習効果測定において6割以上の定着を達成した。
- ・全学年で学習規律の徹底を図り、授業の展開を統一することで児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。

(2) 課題

- ・大田区学習効果測定において、基礎の正答率が区の平均正答率より下回っており、基礎・基本の定着に課題がある。
- ・思考、判断、表現の正答率が区の平均正答率より下回っており、問題を正しく読み取る力を向上させる必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	目標値を1.6ポイント下降した。	/	/
第5学年	目標値を4.2ポイント上回った。 達成率は昨年度より1.7ポイント下降した。	令和4年度の目標値を5.9ポイント上回った。	/
第6学年	目標値を0.4ポイント上回った。 達成率は昨年度より2.0ポイント下降した。	令和4年度の目標値を3.4ポイント上回った。 達成率は令和3年度より5.4ポイント下降した。	令和3年度の4年生の目標値を8.8ポイント上回った。

(2) 分析（観点別）

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4年生は、目標値を0.5ポイント下回った。「大きい数・小数・分数」の分数を数直線上に表す問題の正答率が低くなっている。小数と分数の仕組みの定着が不十分であると考えられる。	4年生は、目標値を5.5ポイント下回った。「□を使った式」の乗法の場面を表す問題の正答率が低くなっている。場面に着目して式を立てるのが困難である。	4年生は、目標値を2.0ポイント上回った。生活や学習に活用しようとする態度は見られるが、1分=60秒などの単位換算に苦手意識が見られる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>5年生は、目標値を1.4ポイント上回った。</p> <p>6年生は、目標値を3.4ポイント下回った。</p> <p>5・6年生の課題として小数のかけ算やわり算の問題の正答率が低い。6年生では、分数の計算(分母どうしをかける通分をする計算)に課題が見られる。</p>	<p>5年生は、目標値を8.1ポイント上回った。</p> <p>6年生は、目標値を2.0ポイント下回った。</p> <p>5年生は、複合図形の問題で面積の求め方や2つの図形の面積が同じになる理由を説明することが概ねできているのでさらに積み重ねていく。</p> <p>6年生は、図を使って小数の乗法の文章問題に合った式を立式することに課題がある。</p>	<p>5年生は、目標値を4.9ポイント上回った。</p> <p>6年生は、目標値を0.5ポイント上回った。</p> <p>意欲的に問題解決しようとする態度は見られるが、三角形や四角形の作図になると、苦手意識が見られる。</p>

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を徹底することや、デジタル教材を活用することを通して基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ・長さを測る活動や経過時間を考える場面を算数以外の学校生活でも多く取り入れ、児童の量感を高め、測定技能の定着を図る。 ・具体物を使い、数の読み方や表し方、数の構成や順序、大小などを実感させて理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを図や式などを用いて表したり、発表を通して自分の考えを説明したりする機会を設ける。 ・問題場面を動作化したり、具体物の操作活動を取り入れたりし、児童の問題への理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形に親しみをもたせるために、実生活に即した問題を取り上げたり、実際の物を計測したりする活動を取り入れる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・反復学習を徹底することや、デジタル教材を活用することを通して基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。 ・数直線を使って、整数・分数・小数の関係を正しく捉える活動を取り入れ、数の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習を取り入れるなど発表の機会を多く設け、図や式、言葉を用いて自分の考えを表現できるようにする。 ・デジタル教科書やICT機器を用いて、具体物操作や問題を正しく理解できるよう教材や問題提示の工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導により、児童の実態に応じた課題設定や実生活に即した問題を取り上げることで、「できた」「わかった」という実感を味わわせ、児童の学習意欲を喚起する。 ・友達の考えの良さに気づいたり、自分の考え方を振り返ったりする「振り返りの時間」を毎時間設け、自己の学びの積み重ねを実感させ、主体的な学習態度を養う。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・反復学習を徹底することや、デジタル教材を活用することを通して基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。・図や数直線を使って数量関係を正しく捉える活動を取り入れ、数の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none">・発表の機会を多く設け、図や式、言葉を用いて自分の考えを説明したり記述したりするなど表現力の向上を図る。・互いの考えを伝え合い、話し合いながらより良い考えを導き出す授業展開を工夫する。・デジタル教科書やICT機器を用いて、具体物操作や問題を正しく理解できるよう教材や問題提示の工夫をする。	<ul style="list-style-type: none">・少人数指導により、児童の実態に応じた課題設定やICT機器を使って作図のポイントを示すなどの工夫を行い、「できた」「わかった」という実感を味わわせ、児童の学習意欲を喚起する。・友達の考えの良さに気づいたり、自分の考え方を振り返ったりする「振り返りの時間」を毎時間設け、自己の学びの積み重ねを実感させ、主体的な学習態度を養う。